

4月13日 聖木曜日

仕える心

ヨハネによる福音書 13章 1～15節

¹さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。²夕食のときであった。既に悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた。³イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、⁴食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまどわれた。⁵それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。⁶シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」と言った。⁷イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。⁸ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。⁹そこでシモン・ペトロが言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も。」¹⁰イエスは言われた。「既に体を洗った者は、全身清いのだから、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」¹¹イエスは、御自分を裏切ろうとしている者がだれであるかを知っておられた。それで、「皆が清いわけではない」と言われたのである。

¹²さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び席に着いて言われた。「わたしがあなたがたにしたことが分かるか。¹³あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。¹⁴ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。¹⁵わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。

他の朗読：出エジプト 12:1～8, 11～14 詩編 116:12, 13, 15～18 I コリント 11:23～26

Lectio …読む

今日の福音書の出来事は過越の食事の文脈の中で語られています。旧約の朗読箇所（出エジプト 12章 1～8、11～14節）では、この祝祭日がユダヤ人たちにとってどれほど大きな意味を持っているかを思い出させてくれます。それはご自身の民を救われた神の奇跡を思い出す祝祭日なのです。

ヨハネは、イエスが弟子たちの足を洗うこの貴重な模範を私たちに与えてくれた唯一の福音書記者です。

イエスの行動は弟子たちを驚かせたに違いありません。なぜなら、客を接待する人が、家に入る客が自分の足を洗えるように水を用意したのが一般的だったのです（ルカ 7章 44節）。時として、召使なり奴隷なりが、この仕事に従事することもあります。非常にまれに、弟子たちが先生の足を洗うことがあるかもしれませんが、しかし、その逆は決してありませんでした。前代未聞です。

ペトロは強く反対します。しかしそれから、未だイエスの目的を理解しないままに、足だけでなく手も頭も洗って欲しいと言います。この現実的な行動の中で、イエスは弟子たちに、そして私たちに、非常に重要な教訓を身をもって示します。即ち、私たちはイエスが私たちに仕えられたように、お互いに仕え合わなければならないということです。謙虚さと奉仕の心は真の弟子であることを示すものなのです。

イエスが本当に求めていたものは謙虚さでした。謙虚さこそ、救いの賜物への唯一の門戸なのです。私たち自身の行動によって、救いを手にすることはできません。十字架上の神の子の謙虚な犠牲を受

け入れることによってのみ、私たちは救いを受けることができます。

Meditatio …黙想する

イエスがあなたの足を洗っているのを想像してみてください。どんな感じがするでしょうか。あなたはイエスに何と言いますか。

どのくらい、イエスの模範に倣い、他人に仕えたいと願っていますか。それをどんな現実的な方法で実践できるでしょうか。

ユダはその食卓に座っていました。そして間違いなく、イエスに自分の足を洗ってもらっていたのです。イエスはご自分を裏切る者の前でも、へりくだられました (11 節)。このことはイエス、そしてユダについても、私たちに何を教えているでしょうか。

Oratio …祈る

詩編 116 編をこの数日間の祈りにしてみましょう。これらの言葉を読みながらイエスの感情と行動を考えてみましょう。聖霊が語りかけることに耳を傾け、12 節の中で詩編作者の言葉を考えてみましょう。

「主はわたしに報いてくださった。わたしはどのように答えようか。」

Contemplatio …観想する

キリストの愛とへりくだり、そして私たちのために苦しんで死んでくださったことについて思い巡らしてみましょう。イエスは変わることなく、三位一体との交わりへ私たちを導びようと望まれています。このことについてもよく考えてみましょう。